



# 日進の木・キンモクセイ物語

## 愛犬ラスティとの思い出詰まった庭 赤池南の川合さん家族

「うちの庭は木だらけで、一体庭なのか、山なのかと言っているくらいです」

赤池小学校に程近い閑静な住宅地に暮らす川合英州さん(77)と純江さん(72)夫婦は、笑いながら出迎えてくれた。

広い庭には、芝生が敷かれ、しだれ梅、ツツジ、サツキ、アイリス、ラベンダーのほか、自生したネズミモチなど、多くの木や草花が育つ。中でもひととき目を引くのが、庭の縁や車庫の横にどっしりと立つ4本のキンモクセイだ。

45年前に移り住んだときに植えた木がもともとも古い。気付けば4メートル程の高さに生長し、「毎年シルバートの庭師さんに、難儀して剪定していただいている」という。

2本目は、町の木がキンモクセイに決まった昭和49年当時に配られた記念樹で、樹齢42年近くになる。残りの2本は、後に自宅を建て替えた20年前に植えた。

将来、地下鉄が通ると聞いて赤池の地を選んだ。その当時1、2歳

だった娘は、名古屋の大学を卒業後、東京の会社に就職して結婚した。

「子どもの成長と一緒に、木もあっという間に大きくなっていった」と驚く。

かつての住所は、大字赤池字モチロ。今もその名は一部の地域で残るが、「餅路」に由来する「モチロ」の響きが気に入っていた。劇的に変わる赤池の街並みを見ながら、「この先ものべつ幕なしな開発ではなく、田園の良さや街の良さがうまく交じり合っていてほしい」と願う。

庭のイスに腰掛けて、ゆっくりと過ごす時間が心地よい。だが、今年4月、15歳4カ月になる愛犬のラスティ(ゴールデンレトリバー)が

員が交代で担当するが毎日のことだけにやはり大変だ。  
初代呼びかけ人の出原伸平さん(84)は「森の中を歩き回って森林

雌)が亡くなり、景色は寂しくなった。「よく長生きしてくれました。人懐っこい性格で、子どもたちや近所の皆さんにかわいがっていただいた」と感謝を込める。

キンモクセイが間もなくオレンジの花を咲かせる。純江さんは言う。「ほんのり漂うあの香りが楽しみ。花の命は短いので、その瞬間を大切にしないとダメですね」。

そのいい香りが漂う庭を、ラスティが元気に走り回っていた姿が今も目に焼き付いている。川合さん夫婦の穏やかな日常を、ラスティはいつまでも天国から見守っていることと思う。(広)



↑もともとも古い45年前に植えたキンモクセイを紹介する川合さん夫婦



↑愛犬のラスティ

### 笑顔 そして、未来へ

植物の育て方についての正しい知識や、園芸・ガーデニングの魅力や楽しさを伝える「グリーンアドバイザー」として活動しています。園芸の楽しさを伝え、植物と暮らす楽しさをたくさんの人に広げて行きたいと思っています。「あなただけの花と暮らし」考えてみませんか？



梅森台 伊藤 珠美さん

日進に居住して43年、都会でなく、田舎でもない日進が大好きです。家の近くに、親鸞聖人の塑像が置かれている宗教公園があります。桜をはじめ、四季を通して自然豊かなとても良い所です。地域の福祉会館や催し物などを活用して、健康で楽しく生活することが希望です。



五色園 伴 律子さん

浴をしながら体を動かし、丈夫で元気に長生きできてコロツといける」と笑いながら新たな仲間参加を呼び掛けている。